

アカシア探険隊
 MI・2017(夏)
 ~頭取室潜入の巻~



70回 小田 宏史氏
 ~株式会社もみじ銀行
 取締役頭取~

陰: 昨年6月頭取に就任され、約1年が経過しようとしています。今のご心境をお聞かせ下さい。

小: 当時は責任の重大さに身が引き締まる思いで一杯でしたが、もみじ銀行生え抜きのトップ誕生ということで、地元のお客さまも喜んでくださり、またアカシアの先輩諸氏からもたくさんのお祝いや激励の言葉をいただき大きな励みとなったことを覚えています。今でも時間の許す限り、お取引先を訪問するよう心がけていますが、改めて期待の大きさを感じるとともに、多くの方々を支えて頂いていると実感しています。

また、地方創生・地域の活性化が叫ばれる時代に地域金融機関のトップを拝命したわけですが、皆さんご存知のとおり広島県の首長である湯崎英彦知事(75回)が同窓であったり、高校時代のクラスメートだった織田秀和君(70回)が前年にサンフレッチェ広島の本社長に就任して見事Jリーグ優勝を果たして地元を盛り上げていたり、何か因縁めいたものを感じました。

そして極め付けは我々がカーブの25年ぶりの優勝です。松田元オーナー(59回)はバレーボール班の先輩でもあり、また、もみじ銀行の看板商品である「カーブV預金」を永年取扱わせていただいている関係もあって何かにつけ気にかけていただいておりますが、頭取就任の年にセ・リーグ制覇という偉業を達成されました。このことによって「カーブV預金」への預入が殺到し、カー



ブ人気にあやかって地元はもとより全国のテレビや新聞でもみじ銀行を大きく取り上げていただきました。これは、もみじ銀行にとって計り知れない宣伝効果となりましたが、勝手ながら松田オーナーからのこの上ないお祝いと受け止めています(笑)。

陰: 日銀のマイナス金利政策や競合激化で経営環境は厳しい中、頭取としての手ごたえは如何でしょうか。

小: 確かに、マイナス金利政策をはじめ銀行を取り巻く環境は厳しいものがあります。そうした中でこの1年間、(少し専門的になりますが)貸出金の中身を大企業向けや地方公共団体向けから、地元の中小企業向けや住宅ローンの残高増加を図り、ポートフォリオの改善に努めてきました。より地域に密着することによって、いろいろなお相談をお聞かせいただき、一緒になって課題解決のお手伝いをする…そうしたビジネスモデルを定着させていきたいと考えています。

私たち地域金融機関は、地元のお客さまと一緒に成長を目指していくことが使命であると思っています。地域内の人口減少やマーケットの縮小という共通の課題を抱えており、新しい価値や新しいビジネスと一緒に創造していかなければなりません。行員にも「銀行の一人勝ちはない」と言い聞かせています。

今後、FintechやAIに代表される金融革命によって、より有利で便利なサービスの提供も可能になってくるでしょう。ただし、一方で地域固有の事情や人縁・地縁を活かし、お客さまのことを知り尽くしているからこそ可能なご提案やサポートを行い、存在感を高めていきたいと思っています。まだまだ十分な結果は残せていませんし、言葉で言うほど簡単ではないと思いますが、少しずつ行員の意識も変わってきているのではないかと思います。

陰: 大学をご卒業後、もみじ銀行(旧広島相互銀行)に入行され、今日までの33年間の銀行生活で気づかれた事・お感じになられた事をお聞かせ下さい。

小: 就職先を選定するに際して、銀行員という職業を特に望んだということはありませんでした。大学卒業を控えてどうしようかなと思った時、広島土地柄や人間が大好きだったので、地元に戻ることを決め、ご縁をもらったのが旧広島相互銀行でした。人前でしゃべる事はそれほど好きではなかった



P r o f i l e

【学歴】 昭和59年3月神戸大学法学部卒業

【職歴】 昭和59年4月株式会社広島相互銀行入行 (平成元年2月株式会社広島総合銀行) 平成15年8月山口支店長 (平成16年5月株式会社もみじ銀行) 平成17年2月営業推進部主任調査役 平成20年7月竹原支店長 平成22年6月経営管理部長 平成23年6月株式会社山口フィナンシャルグループ経営管理部長 平成24年4月株式会社もみじ銀行取締役(海田支店長委嘱) 平成26年6月常務取締役 平成28年6月取締役頭取(現任)

し、はたして外交に向いているのかなと思っていましたが、日々、人との出会いや付き合いがあり、人間関係や信頼関係を深めていくその先に初めて商売があるのだと気づかされて、銀行稼業も面白いかなと感じるようになりました。

また、多くの先輩に恵まれ、いろいろな方に鍛え、教育して頂いたことも幸いでした。特に当行はかつて「教育銀行」と言われたこともあり、職位や年齢に関係なく意見を交わしたり、経験やノウハウを次世代に伝承していく教育文化というものがありましたし、機会教育にも恵まれ、身の丈よりも少し高い仕事を任せられ試されたお陰で、怠け癖のある私も銀行員として成長することができたのだと思います。その意味では、ここまで私を育てていただいた上司や同僚そしてお客さまに感謝感謝です。

陰: さて、附属時代のお話を伺いたしたいと思います。

まず、附属高校での思い出をお聞かせ下さい。

小: 高校進学に際して附属高校はほとんどイメージがありませんでした。男女共学のお坊ちゃんお嬢ちゃん学校らしい印象しかなく、それより川を隔てた千田町の男子校の方がバンカラ風で



自分には合っているのではないかと感じていました。

運よく奇跡的に附属高校に最初に合格し、担任の先生に「次に修道高校を受けたい」と言うと「附属は絶対ええ学校じゃけえ、わしに騙されたと思って進学しんさい」と言われ入学しました。入った瞬間に進学校・坊ちゃんお嬢ちゃんとは全くかけ離れた自由奔放な校風で、誰もガリ勉していないし(少なくとも学校ではそんな素振りもなく)、自分にはこの校風が合うと直観的に思い、中学校の担任の先生に感謝したのを覚えています。

またI年の時の体育祭では、応援団に入って(入らされて)炎天下の校舎屋上で連日練習をしたり、前日祭の「パートII」という出し物で先生の物真似をしましたが、学校を挙げて盛り上がったことは強烈に印象に残っています。櫓(やぐら)も高校生がここまで造るのかと思いましたし、マスケムを見てその完成度には本当に感動したものです。また、体育祭の後の打ち上げではハメを外しすぎて二十歳前にやってはならない行為にも及びましたが、運悪く見つかった人は、お決まり(!?)の謹慎処分を喰らいました。逃げ切った人、逃げ切れなかった人…いい思い出です。

実は高IIの9月、草野球しか経験がないのに広島東洋カープの入団テストを受けたことがあります。子供の頃からの夢だったプロ野球選手、カープ愛が高じ一度腕試しをしようと思いついたのが発端ですが、結果は当然不合格

でした。明らかに無謀な行動ですが、「やりたいことをやってみる」自由を尊重する附属の校風がなければ、こんな馬鹿な真似はしなかったと思います。

陰：バレーボール班での思い出をお願いします。

小：私は広島市西区の中学校に通っていましたが、3年生の時に広島城のそばにある中央バレーコートで附属中学校と試合をした事がありました。私の中学はそんなに練習熱心ではありませんでしたが、体格には恵まれており身長175cm前後の生徒が揃ったチームでしたので、確か2回戦だったと思いますが附属中学校との対戦が決まった時、「進学校だし弱いに違いない、ラッキー」と思ったことを覚えています。ところが結果は2セット連取され0-2で負け、そのうち1セットは何と0-15でした。一度もサーブ権を奪うことなくそのまま完敗、普通ではあり得ない惨めな負け方でした(笑)。この試合で、見事なドライブサーブを決めまくった川上伸一君とは翌年同級生として再会することとなり、他のチームメートの皆さんも含めて今でも仲良くお付き合いさせてもらっていますが、たまに当時の試合を酒の肴にして盛り上がることもあります。

バレーボール班の練習はほぼ毎日ありました。私はどちらかというとサボりたい部類に入る方でしたが、中本薩雄先生や伊東治己先生のご指導、また先輩方や仲間を支えられて厳しくも楽しいクラブ活動生活を送ることができましたし、バレーボール選手としての技術も飛躍的に向上しました。OBの方も練習の手伝いによく学校に来てくださいましたが、無断で練習を集団逃亡し「普通の女の子に戻りたい」と言って引退を発表したアイドルグループのコンサートを見に行ったりもありました。

陰：最後にアカシア会に対しての思いを

お願いします。

小：私自身は高校からの入学で、銀行に入ってもどちらかと言えばマイペースで横着なところがあり、アカシア会の活動に積極的に参加してきたとは言えません。けれども、今の立場になっていろいろな人と出会う機会も増えてきたなかで、「アカシア」というだけで理屈抜きに応援してやろうといったお言葉をたくさんいただき、また実際に各方面で先輩・同僚・後輩が活躍しておられ本当に心強く、附属出身で良かったなと思います。卒業して33年間経ちますが、これまでの反省も含めて、こういったご縁を大事にしていきたいと思っています。

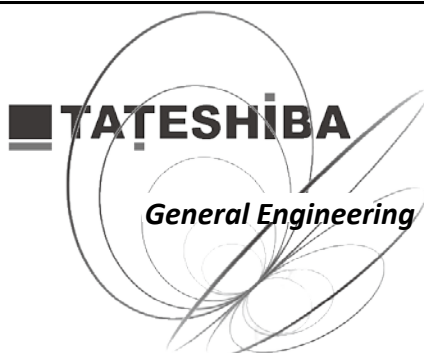
私たちを取り巻く環境は日々変化・進化しており、時代に即した新たな経営体制や価値の創造が求められると思っています。私は、地域金融機関に身を置く者として、地元広島の発展のために微力ながら尽くしていこうと考えています。

アカシア同窓生は、当地はもとより全国で、場合によっては世界をまたに駆けて、また、さまざまな分野で頑張っておられることと思いますが、アカシア出身であることに誇りを持って、そして校訓のひとつでもあります「創造を旨とし、気魄と情熱に燃えよ」をモットーに、益々活躍されることを祈念いたします。

陰：本日はいろいろお聞かせ頂きありがとうございました。これからの益々の小田様のご活躍をご祈念申し上げます。



左より、陰山秀明(63)、小田宏史氏(70)



株式会社 立 芝
代表取締役会長 向井 恒雄 (50回卒)